

日本の金融業とアジア

吉野直行・アジア開発銀行研究所-所長(ADB)

慶応義塾大学名誉教授

1、アジアの成長可能性(世界のGDPに占める比率)

23%(1990) 38%(2013)、50%(2050)「Asia 2050.ADB」

2、金融システム安定化(不良債権の縮減)→リレバン→成長戦略→費用効率性

3、日本の金融業の労働生産性(米国との比較)

4、リスク回避・冒険を犯さない(預金が原資)、リスクを取れる金融(ふるさと投資ファンド)

5、10年後20年後の金融----ITの活用による金融業の姿-----日本の金融業の変化不可欠

6、「見える産業(製造業)」「見えない産業(金融業)」――英語での説明が必要(金融)

7、日本発の金融・新技術は？

利用者からの苦情から、新商品を開発

8、「情報の収集」(世界の政治情勢、国の情報、産業・企業情報)

9、金融OBのアジアでの活躍

10、基礎的な「金融経済教育」、「赤信号では渡ってはいけない、投信は元本保証されない

労働生産性水準(対米比)と就業者シェア Labor Productivity Level (ratio to the U.S.) and Employment Share

